

発行所＝社会通信社 発行人＝滝野 忠

ホーメージ <http://shakaitusuushin.cool.coocan.jp/> e-mail: shakaitusuushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目一八一—一九〇四 電話・FAX(03)3299-15367

郵便振替＝〇〇一〇〇一九一五八四三一 労金＝中央労金本店 No.1154163

（もくじ）

■卷頭言■
しつかり原点に立つて、
原発廃止を主張しよう

相沢 一正・2

関電不正と原子力マフィア 原野人・3

関電と原発マネーの癒着を許すな！

—高浜原発と高浜町役場に抗議と申し入れ—

被害者ぶる関西電力を許さない

—関電会長ら7人辞任！野瀬高浜町長は再稼働同意見直しへ！

牛と掃除されたお墓と無残な窯元跡 國分 富夫・5

—浪江町帰還困難区域—

数十万被害者は絶対に許さない

—9・19 東電経営者「業務上過失致死罪」無罪！

労働組合つぶしを許さない 小西 純一郎・7

—関生支部への支援拡大へ兵庫集会を計画—

山本太郎 れいわ 参院選 滝野忠・9

読者からのおたより

11

旬刊社会通信

NO.1299

一〇一九年十一月一日号

（毎月一日・十五日二回発行）

しつかり原点に立つて、原発廃止を主張しましょう

2011年3月11日の福島第一原発事故前まで、〈日本では原発の内に溜(た)まる危険、「死の灰」など放射性物質、を環境に出さないよう〉に「五重の壁*」で防護しているから事故は起きません」と、原発推進側は主張してきました。

〔*放射能の閉じ込めに役立つとされている障壁。ペレット、燃料被覆管（ひふくかん）、原子炉圧力容器、原子炉格納容器、建屋をいう。左下図参照〕

この主張の裏側に、一方では放射性物質が環境に出れば大変な惨事を生むという認識があつたこと、他方では、事故は起きない、安全だからとして54基もの原発を建ててきたという事実があります。

「五重の壁」が崩れた

3・11では原子炉も建屋も、そして格納容器まで壊されました。「五重の壁」は完全に崩壊し、放射性物質は環境へ大量に放出されました。

〈放射性物質を内に閉じ込めるから事故は起きない〉という神話が崩れたのです。この経験をもつて原発推進側はこれまでの主張の間違いを認め、原発の廃止を決定すべきだつたのです。

間違つた発言にさらされてきた私たち住民の立場からは、事故は起きたのだから、原発推進側に、責任をとつて原発を廃止するよう求める権利があると言えます。まずはその地点に立つて原発廃止を主張しましょう。

真逆の安全の考え方方に同意しない

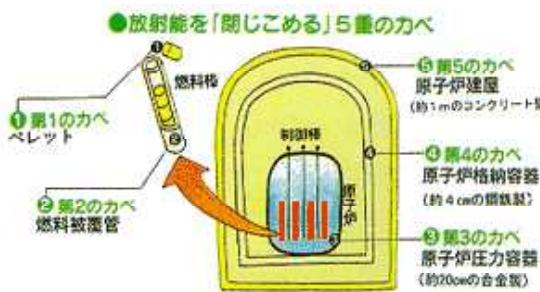
驚くべきことに原発推進側は、事故のあと、今度は〈放射性物質が環境に出る過事故は起こることを前提にした原発推進〉を打ち出しました。放射性物質を「出さない」ではなく、「出す」、というまるきり正反対の考え方です。

つまり、放射性物質の防護対策として、深層防護*の4層、5層を新たに設定しました。（*深層防護..何重にも安全対策がなされていること）

4層の過酷事故対策では、最後の砦である格納容器に逆に穴を開け、意図的に放射性物質を外に排出するというのです。フィルターを付けて放出量を低減するとは言つていますが、「出さない」ではなく「低減する」です。すなわち放射性物質による「被曝」や「汚染」をはじめから容認しているということです。

5層では、「被曝」は始めから不可避とされ、それを「軽減する」ための広域避難計画を規定しています。しかし、「汚染」に対してもお手上げです、何の規定もありません。避難元地域は「汚染」されっぱなしで、対策は事後的ななされるだけです。ですから、「避難」しただけで「帰還」は完全にはできませんし、困難を極めます。

←九州電力HPより



こんな理不尽に従うわけにはいかない

この4層、5層の放射性物質防護対策は放射性物質を閉じ込めるという従来の安全対策とは真逆です。閉じ込めるのではなく、放出して、「被曝」と「汚染」と「広域避難」を前提とした対策ということです。

これがどうして安全対策なのでしょうか。公益に関わる部分があるとは言え、一営利的私企業のために何でこのような負担を私たち住民は強いられなければならないのでしょうか。

「冗談じやない」と腹を据えて主張しましよう。少なくともこれまでの安全の考え方と全く異なる考え方で原発を稼働させようとするならば、この国土の住民が納得する民主主義的手続きを経る必要があります。そのことを権利として主張しましよう。

（脱原発とうかい塾 世話人代表 相沢 一正）

関電不正と原子力マフィア

電力独占資本の東西両横綱は、地震列島に原発を推進してきた。東電事故に関する経営者の無罪判決は国家機関の本質を明らかにしたが、関電会長ら経営者の驚くべき不正は原子力マフィアの闇と末期的退廃をさらに明るみに出した。

電力会社から高浜町内の建設会社に支払われた原発工事費の一部が、「顔役」と呼ばれた町の元助役森山栄治氏の仲介で関電の八木誠会長以下20人のもとに還流されていた。元助役には工事受注に絡む多額の「手数料」が渡つていたらしい。

金沢国税局の税務調査などで明らかになつた関電経営者の受領額は、3億2千万円とある。9月27日の岩根茂樹社長の説明によると、これを受け取つたのは八木会長以下20人で2011年～18年までの7年間だとする。ところが28日の八木会長の釈明では、自らが受領した時期は2006年～10年だという。

森山元助役をよく知る高浜町の男性によると「金品提供は何十年も前からやつていた」ことであつた。関電社長らは死人に口なしの元助役を極悪人に描いてみせるが、最大の悪人は別にいるのでは。3・2億円は実際より一桁低いのでは。

原発関連工事以外にも原発立地対策や再稼働対策にと使われた金の中からも、いかほどかが還流されたはずである。

似たようなことは関電の高浜だけでなく美浜でも大飯でもあつたのではないか。さらには関電だけでなく、9電力で当たり前のことだつたのではないか。

関電の八木会長は11年4月から16年6月まで10電力（うち沖縄電力だけは原発をもたない）を束ねる電事連（電気事業連合会）の会長であつた。岩根社長は19年6月から現在に至る電事連の会長である。ここで辞めるのは当然だが。

関電は第三者委員会を作つて調査するというが、彼等もマフィアのうちである。ではこれらの金はどこから生まれたものか。いうまでもなく電気料金だ。一般家庭用電気料金には高い独占利潤が上乗せされ、労働者など民衆はここでも追加搾取されている。一部は電源三法交付金等がもとであれば税金から使われるが、これも労働者

等から追加搾取されたものだ。

独占資本の経営者の普通の報酬は、そこで働く労働者から搾取した剩余価値（利潤）と、販売商品の独占価格から生まれる独占利潤とを基にして、それだけでも非常に高い。その上に闇の報酬が加わるのだから、経営者たちにとつて原発はやめられない。原発は巨額な設備投資をする電力会社だけの利潤源ではない。何兆円もの原発を建造する重機・電機・建設会社の売り上げと利潤にもかかわる。

原発を推進してきた自民党の歴代首相や大臣や幹部や議員や経（通）産省の幹部達にも、闇の報酬は流れているはずだ。都合の良い判決をしてくれる裁判官も裏では無縁ではあるまい。

闇は深く広い。日産のカルロス・ゴーンなどの犯罪は単純なものであつたが、原発マフィアの方がはるかに奇怪で大規模なものである。

（原野人）

関電と原発マネーの癒着を許すな！

—高浜原発と高浜町役場に抗議と申し入れ（10月8日）—

関電幹部一高浜町元助役一地元業者の癒着と、多額の黒い原発マネーが関電幹部に還流していたことが明らかになり、私たちは、高浜原発に近い展望所から原発ゲート前まで抗議のデモを行い、関西電力高浜原発に抗議行動と申し入れを行い、移動して高浜町役場で申し入れを行つた。急な呼びかけにも関わらず、福井、東京、関西から70名が参加。

申入れは、関電幹部の私的利潤のために進めた原発の建設、再稼働に抗議。コンプライアンスを徹底する能力と資質のない関電に対し、40年超えの危険な老朽原発をはじめとする全ての原発の即時停止と廃炉を求めた。原発を動かし続けて重大事故が起つた時、それは関電の故意による犯罪であるとして、申し入れ書を手渡した。参加者は、不正が構造的なものであり、電力消費者を愚弄し、原発事故が起これば高浜のみに留まらず関西一円が被害者になるとして、収まらない怒りを訴えた。

この怒りを、福井、名古屋、米原、近江八幡、高島、大津、京都、姫路、神戸からのリレー・デモのうねりとなし、関電本店に押し出そう！

（『老朽原発うごかすな！ キヤンペーンニュース』から）

被害者ぶる関西電力を許さない

—関電会長ら7人辞任！ 野瀬高浜町長は再稼働同意見直しへ！—

10月8日高浜に向かつた。関電と高浜町に抗議するためだ。元高浜町助役が多額の金品を関電幹部に還流していた事実が明らかになるにつれ、我々の怒りは極に達している。まず原発北門へデモをし抗議活動と申し入れを行つた。しかし、いつも関電側の対応は申し入れ書を受け取つて上部に伝えると言うのみ。どれだけ申し入れ書の中身を読んでいるかは疑わしいものだ。

次に高浜町役場へ行く。大勢の職員が役場の前で待ち受けている。まるで敵陣に对抗するように並んでいる。私たちは元助役が町政に及ぼした影響を明らかにせよと要

求しているのだ。職員の一人が「私は金をもらっていない」と吐き捨てるよう言うがそんな問題ではない。この際、関電への怒りを明らかにしておく。関電はもう許せない！電気料金は第2の税金の様に払い続けてきた。電気料金が値上げされても、反対することなく払ってきた。その中には原発の建設費も上積みされていた。最近でこそ電力会社が複数できたが、それまで関電の独占だったではないか。原発には反対でも一括で払わされ続けてきた。

その結果がこれか。元助役一人を悪者にして、自分たちは被害者ぶる。いつたいあなた方は何様だ。庶民を踏みつけて君臨してきたではないか。フクシマの事故は何も片付いてはいない。避難者の苦しみはいかばかりか。

（『老朽原発うごかすな！ キヤンペーンニュース』から）

牛と掃除されたお墓と無残な窯元跡

－浪江町帰還困難区域－

「震災関連死」2278人 9月5日現在で福島県のまとめとして「震災関連死」と認定された人の数は2278人、一年前からすると32人増えています。8年半過ぎても増え続けているのですから放射能公害は深刻です。単に被ばくだけの問題でないことも明らかであります。震災関連死は原発事故で避難を余儀なくされた浜通りなどの市町村が大半を占めているのが実態です。

9月11日と20日に浪江町小丸（帰還困難区域）に行つてきましたが、放射線量は5 μ Svから10 μ Svでありました。事故前は0・05程度ですからなんと平均で160倍もあります。それも自然界にはない最も有害なセシウム137です。さらに堀の近くは15 μ Svでした。小丸地区の農業は田畠と繁殖牛生産でありました。

帰還困難区域ですから当然離農してしまいました。ただ一人、「殺処分は忍びない」という思いから、田畠であつたところに牛を放牧している方がいました。50頭ほどいましたが、環境省指導で肉牛としては駄目、繁殖してもダメということですから、50頭としては広大な牧場であり自然に自生した牧草が豊富で飼料を一切与えなくも丸々とした牛ばかりでした。ただ冬になれば飼料を与えていたそうです。

9月はお彼岸の月とあってか帰還困難区域の墓は綺麗に掃除がされていました。もちろん自分の墓に行くにも許可を取らなければ入ることができません。それに長時間居ることもできません。牧場のある所はどこへ行つても自然豊かなところばかりで、相双地方は寒からず暑からずで都会に住む方々の憧れの地でもありました。

原発事故前は田舎暮らしにあこがれて退職してから永住する方も少なくありませんでした。私のお付き合いしていた方も田舎に憧れ早期退職しログハウスを建て馬を飼い楽しんでいましたが、原発事故後、避難続きで体調を崩し60歳そこそこで亡くなりました。

牧場の隣は大堀相馬焼 大堀相馬焼は江戸時代初期（1690年）に作り始められたと言われています。当時その地方を治めていた相馬藩が、焼き物作りを保護、育成したため、江戸時代末期には100余りの窯元が並ぶ、東北地方で一番大きな産地にな

りました。

三つの特徴 馬の絵 旧相馬藩の「御神馬」が描かれており、別名「左馬」です。それは「右に出るものがない」という意味から縁起が良いとして地域では親しまれてきました。原発事故前は23の窯元があり現在はバラバラになってしまいました。各窯元は無残な姿となってしまいました。 (『原発事故被害者相双の会』No.89 國分富夫)

数十万被害者は絶対に許さない

— 9・19 東電経営者「業務上過失致死罪」無罪 —

旧東電経営陣3人が、原発事故への備えをおこたり、双葉病院入院患者らに事故の避難を余儀なくさせ、多くの方の命がうばわれたことに対し、業務上過失致死罪容疑で起訴された東京地裁判決(9・19)は「無罪」であった。

こんな不当判決はありえない。判決は、国が示した「津波予測の長期評価は信頼性に疑いがある」という。しかし私ども「相双の会」をはじめ数千人の避難者・被害者が全国各地で起こしている「損害賠償」請求訴訟では、多くの地方裁判所が東電が津波予測に備えなかつた責任は指摘しているのだ。それからしても全く異例の不当判決だと言わざるを得ない。

さらに「事故前の法規制は、絶対的な安全確保を前提としていない」から「三人に刑事责任は問えない」というのには、開いた口がふさがらない。こんな理屈で東電経営者が無罪なら、どんな事故をおこしても「過失致死傷罪」には問われないだろう。

原発事故は他の事故とはわけがちがう。原発で利益をあげてきた企業が事故を起こした責任は、他の事故や公害の企業責任の幾千倍も重いはずだ。なぜなら、人がコントロールできない物を扱つて利益をあげた責任なのだ。

いつたん拡散されてしまった放射能はどんなことをしても少なくとも百年で十分の一ですから消すことはできない。だからこそ汚染土壤も汚染水も処分のあてもなく、時が経つにつれ大問題となつてきているではないか。公害もひどいが汚染源はともかくなくなるが放射能はそうはいかない。だから本来人が医療などは別にして扱つてはいけないものだ。

福島第1原発は、地元の強い反対運動を金で買収し、おどかしつくられた。百歩譲つて原発事業を認めたとしても、その「前提」に「絶対的な安全確保」がなければならぬ。それを理解できぬ東京地裁はイロハがわかっていない。

19日の判決で問われたのは双葉病院の被害者だけでなく、未だに関連死が増え続け、狂わせられた私たち数十万人の被害者の実情だ。広大な故郷を復興不可能に汚染し、冷却水すら海への放出が云々され、除染は賽の河原の石積みのごとく、除染土は貯蔵先も展望なく国と自治体は公共事業への全国利用で分散を企む。

慰謝料や住宅補償を打ち切られ、レントゲン室以上の高線量地域に「帰還」を促され、時が経つほどに甲状腺がんの恐怖は増大する。司法はこの現実を見てほしい。東京地裁の不当判決に対し、控訴して闘おうという声がひろがっているが、その通りだと思う。

〔原発事故被害者相双の会〕No.89(2019年10月1日発行)」

関生支部への刑事弾圧 労働組合つぶしを許さない

支援拡大へ兵庫集会を計画！

労働組合への未曾有の大弾圧

2018年7月以降、全日本建設運輸連帶労働組合関西地区生コン支部（以下、全日建関生支部）に対する権力の異常な弾圧が続いている。逮捕された組合員はのべ85人、事業者8人、起訴された組合員はのべ69人、事業者5人、その他、組合員や元組合員、事業者に対する膨大な任意出頭や家宅捜査が行われ、まだ進行中だ。武建一委員長をはじめ主要な役員は1年を超える長期拘留が続いている。

業界のコンプライアンス活動を中心課題に

全日建関生支部は、1990年代以降、重大な交通事故につながる過積載や、ビル、トンネルの事故に直結する欠陥生コン（シャブコン）の追放など、コンプライアンス活動などを組合活動の大きな課題として産業別の運動に取り組んできた労働組合である。

生コン業者の協同組合化と労働者の労働条件の向上に取り組む

生コン業界は大手ゼネコンとセメントメーカーの力が強く、中小の生コン業者の経営は圧迫され、労働者には劣悪な労働条件を強いていた。こうした状況のなかで、関西地区では関生支部の取り組みによって、中小企業の協同組合への加入を通して大手ゼネコン・セメントメーカーに対し、輸送運賃の引き上げを通して日々雇用労働者の正社員化や労働条件の引き上げをめざしてきていた。

憲法28条を無視し、

あたりまえの労働運動を「威力業務妨害」罪、「恐喝未遂」罪に

一連の全日建関生支部に対する弾圧（逮捕、起訴、長期拘留）は、労働組合の正当なストライキ権行使、従業員への平和的な協力要請、組合活動のABCであるビラ配布活動や抗議行動など、労働組合として当たり前の活動を「威力業務妨害」罪、「恐喝未遂」罪として弾圧しているのだ。

弾圧は滋賀県警、大阪府警、京都府警、和歌山県警に拡大している。

滋賀県警は、生コンクリート業者らの協同組合に対して「関生と手を切れ」と言い、組合員に対しては「関生労組を辞めたら釈放してやる」などと、戦前の特高警察も驚くような手法で労働組合つぶしの国家的な不当労働行為を行っている。

歴史的にみれば、労働者は無権利状態のなかで命を懸けた闘いによって団結権、団体行動権を獲得してきた。わが国においても、非合法下の闘いを経て、戦後、憲法28条で団結権、団体交渉権、団体行動権が認められた。そして、労働組合法第1条で刑事責任が定められ、第8条で損害賠償請求など民事免責が認められ、労働組合の活動が保障されたのである。労働者は闘い取った団結権、団体交渉権、団体行動権を駆使し、奴隸状態から人として当たり前に生きる権利を獲得してきたのだ。

「共謀罪」の先取り

また、今回の一連の弾圧は、労働組合をあたかも犯罪者集団と同一視するかのような弾圧であり、しかもスマートフォンのデータを押収して共謀を問題として逮捕するなど、共謀罪の検査手法を確立することが意識されているとも指摘されている。

闘う労働運動、市民運動に対する挑戦でもある

今回の全日建闘生支部に対する弾圧は、闘う労働運動の根絶やしを狙うものだ。さらに、労働運動つぶしに止まらず、沖縄・辺野古新基地建設反対をはじめ米軍・自衛隊基地に反対する運動や、脱原発運動、そして安倍政治に対する一切の抵抗を許さない民主主義の全否定の一環だと捉える必要もあると言わねばならない。

兵庫でも反撃を開始しよう

こうした当たり前の労働組合、当たり前の労働組合運動をつぶし、民主主義を破壊しようとする攻撃に反撃する運動が全国的に広がろうとしている。支配者は常に働く者を分断しようとしてくるが、労働者の権利、平和と民主主義を守るには、働く者が団結と連帯を取り戻す以外に道はない。

兵庫県においても弾圧が集中している全日建闘生支部を支援し、連帯する運動づくりの取り組みをしていくため、10月23日に神戸市立労働会館で「労働組合つぶしを許さない兵庫集会」（資料参照）を開催することになった。ぜひ趣旨に賛同をいただき、兵庫集会に多数の参加をいただきますよう呼びかけます。

〔『新社会兵庫』No.545（10月8日発行）小西純一郎（ひょうごユニアオン事務局長）〕

〈資料〉労働組合つぶしを許さない兵庫集会参加のお願い

呼びかけ人（赤松範夫（弁護士）、岩佐卓也（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）、上原康夫（弁護士・ひょうご労働法律センター代表）、碓氷良介（全港湾神戸支部委員長）、岡崎進（ひょうごユニアオン委員長）、高橋ひでのり（神戸市議会議員）

連日の御健闘に心より敬意を表します。

さて、2018年7月以来、全日本建設運輸連帯労働組合開西生コン支部に対する異常な弾圧が続いています。逮捕者された組合員は77人に及び、その内50人以上が起訴されると言う前代未聞の労働組合に対する刑事弾圧です。これらの逮捕、起訴、長期拘留は、労働組合の正当なストライキ権行使と従業員への平和的な協力要請やビラ配布活動、また、労働組合として当たり前の非正規社員の正社員化の要求の運動を「威力業務妨害」罪として弾圧しているのです。弾圧は滋賀県警、大阪府警、京都府警、和歌山県警によって強行され、拡大の様相を呈しています。

今回の全日建連帯闘生コン支部に対する弾圧は闘う労働運動の根絶やしを狙うものです。さらに労働運動つぶしだけではなく、沖縄・辺野古新基地の反対する運動、原発反対運動や、言論弾圧で安倍政治に対する一切の抵抗を許さない民主主義の全否定の一環だと捉える必要があります。こうした攻撃を跳ね返そうとする運動が全国的に広がっています。兵庫県においても連帯する運動づくりに向けた取り組みをしていこうと9月26日に標記集会の賛同会議が開催され「労働組合つぶしを許さない兵庫集会」の開催を確認しました。集会の趣旨に賛同いただき、一人でも多くの仲間に呼びかけ参加頂きますよう呼びかけます。

1、日 時 2019年10月23日（水）午後6時半

2、場 所 神戸市労働会館 308号室 （神戸市中央区雲井通5-1-1-2
（三宮駅東へ徒歩5分） 電話 078-232-11881

3、内 容 問題提起

- ・岩佐卓也氏（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）
「関西生コン支部弾圧と労働組合権利」
- ・森博行氏（大阪労働者弁護団代表幹事）
「憲法・労働組合法と組合弾圧」
- ・全日建連帶関生支部からの報告

山本太郎れいわ参院選

結果

参院選は、自民・独占資本（支配する階級とその権力）に買収された商業メディア（ブルジョア・マスコミ）には、不愉快な結果となつた。ある時は学者、またある時は評論家、またある時は元政治家（国会議員であつたり、知事）、タレントと「ゲゲの鬼太郎君」の世界に住む「妖怪」どもは①自民が勝ち野党が負けた、②政治への期待・関心がない、③野党が代替案・対抗軸を示さなかつたからと、現象を羅列し好き勝手に論ずる。

なぜ低い投票率か、なぜ政治的無関心の広がりかについては「安倍政治の背景」（第1295、9月1日付）と「参院選総括」（第1296、9月15日付）で述べた。妖怪どもは、喜び、怒り、悲しみ、苦しむ労働者とは別次元の世界に生きている。1時間たらずの「お話し」で非正規労働者の1ヶ月分稼ぐ輩も珍しくない。そんな人物を非正規労働者を支援するさまざまな組織が講師に招く。系統的な学習が少なくなつた、労働者階級の知の力が落ちた。支配階級は系統的に労働者階級の意識を眠り込ませることに力をつくす。支配階級の思想攻撃に負けていいるのである。争点はここにある。

山本太郎とれいわ

こんなメディアを楽しませたのが、太郎ちゃんの「躍進」だ。太郎ちゃんが政界入りをめざしたのは2012年、衆院選に「新党今は1人」を立ち上げ、石原伸晃に挑戦。2013年参院選、東京地方区に無所属で再挑戦、当選。得票は66万票、定数5の4位である。訳知り顔のベテラン議員や政治プロは、「無所属では活動の場がない。どの会派に入るかは、思想性にかかる」とのたまう。

太郎ちゃんはそれを実感し、「保守二大政党制」に異常な執念を燃やす小沢一郎氏に「弟子入り」した。小沢氏は政界再編、小選挙区制導入で今の政治状況のもとをつくり、社会党をつぶしたわれわれにとつては「極悪人」である。このことは忘れない。2016年、小沢氏は政党要件を満たすため太郎ちゃんに声をかけた。「生活の党」と山本太郎のなまたち」結成、そして自由党である。

自由党は2019年3月、国民民主党と統合と言えばカッコいいが、吸収された。

太郎ちゃんはそれにはついていけなかつたようで、小沢氏に「ぼくは新党をつくりたい」と、参院選直前の4月、「れいわ新撰組」を立ち上げた。「れいわ」は元号、「元」は元始の元で「はじめ」を意味する。政府は新しい「天皇」（君主）の治世のはじまりとともに建元する。改元は、その元号を制定した君主に服従することの表明だ。「新撰組」は志士（革命家）を殺りくした、今流にいえば反動家、テロリストである。元号+テロリスト、社会主義者のぼくたちとは対極にある。

新撰組は対局の西郷と並ぶ人気をもつ、令和（れいわ）は広告料無料でメディア、権力が祭（まつ）り上げる。太郎ちゃんの回りには、なかなかの知恵者がいるやに思われる。太郎ちゃんは16歳からの芸能人だという。彼がどんな芸人なのかまったく知らぬ。「釣りバカ」でのゲスト出演が記憶にあるくらいだ。芸能界は想像を超えて、生き馬の目を抜く世界もあるらしい。

手法、政策、評価

山本太郎氏に組織はない、確たる支持基盤もない。俳優としての知名度、6年間の国会活動が基盤である。「れいわ」躍進の原因を手法、政策等から考える。

手法 「れいわ」結成は改元直後、広告費のいらない党名、「お祭り騒ぎ」の国民の関心を惹いた。山本氏は高性能の音響装置を駆使し歯切れよく「生産性で人間の価値がはかられる時代でいいのか」「あなたの生活が苦しいのはあなたのせいにされていないか」と訴えていた。自民党が議席維持に強行した「特別枠」を逆手にとり、重い障害をもつ2人を山本の前にすえた。

こんな手法が「捨て身の覚悟」「政治家らしくなく庶民の目線で話している」との評価を生んだ。それをあらためて感じさせられたのが、15号台風の組閣時、太郎ちゃんは「出がらしのお友達内閣にコメントは特にない。そんなことより千葉の復旧に全力を注げ」と一撃したことである。

政策 ある論者は「山本氏が訴えていたのは『庶民のための経済政策』で消費税の廃止、奨学金チャラ、財源はお金持ちからとればいいと。今の政治の方向性と違うものを提案した」という。

これはおかしい。「今の政治の方向性と違う提案」は、共産党や社民党が一貫して訴え、自民党と対抗する。しかも、詳しそうなほど精密な政策を示している。山本氏の「政策」はスローガンを並べ、わかりやすい言葉で熱っぽく訴えた。「反緊縮」を訴えたからではない。

「劣化」そして「ポピュリズム」

階級および階級対立、もつといえど唯物史観の視点からの情勢分析が少なくなつた。最近めだつのは生活・労働・資本主義の「劣化」、ポピュリズムなる言葉である。

「劣化」とは資本主義特有の階級対立にもとづく矛盾—貧困、格差、強い搾取等のあらわれである。

「ポピュリズム」は、『迎合主義』と定義される。これも正しくない。政治闘争は権

力をめぐる闘いだ。政党政派は権力をめぐり支配階級だけでなく、権力を批判する政党とも闘う。矛盾の激化は現社会体制への反抗、被抑圧者（庶民）が抑圧をくつがえそうとする試みを生む。それは現状への抗議、デモ、ストライキ、反乱、そして革命となつて爆発する。「ポピュリズム」は、正しくこう語られなければならない。

（滝野忠）

◇ 読者からのおたより ◇

明日の朝が心配 今回の思い出の郵便ボストNo.158（2019.10.15）は、高岡市富山銀行本店奥の路地の丸形ボストです。赤レンガ造りの趣のある建物に惹かれて歩いて行つた先にありました。さて、今年は（今年も）異常天候で農作物も影響を受けています。この文面を書いている今は台風。19号の暴風、大雨。明日の朝が心配です。りんご落ちないことを願つて。（万年筆で追伸 千曲川の被害地から我が家迄15km。あの被害からして、りんごの落下云々云えません。（長野・山浦隆芳）

地球温暖化への取り組みを 9月定例議会が終わりました。先日のニューヨークで行われた、国連気候行動サミットでの16歳の少女は「よくもそんなことができる」と問題提起をしました。この問い合わせに私たちは何と答えればよいのでしょうか。彼女の心の叫びに応える行動が大切です。私も9月定例議会で環境問題の質問をしました。温暖化対策に繋がる様々な取り組みが、多くの場所で、多くの人々によつて展開されなければなりません。

今、国際社会ではアメリカの迷走と、米・中の覇権争い、イギリスにおけるEU離脱問題等、一触即発の危険をはらんだ展開となつていています。日本の国際関係ではアメリカとの関係や、中国、韓国等との問題があります。いずれにしても話し合いを基本とした平和外交の展開でしか解決されないと私は思います。国内では、7月の参議院選挙後の安倍内閣改造等があり、安倍政権は当面の課題として、憲法の改悪に向けた危険な動きがあります。当面の動きを注視しなければなりません。

11月には福山市立大学で議会報告会を開催し、大学生との意見交換をします。

〔広島県福山市・『西本章議会報告』No.62（2019年10月8日付）より〕

来年三池と安保を前にして

三池と安保の闘いから来年は六〇周年になります。三池CO事務局会議では、①日程をどうするか、②実行委員会を結成する、③一・九抗議集会と実行委員会について、等について討論し、当面継続して話し合つていくことにしています。

◇一九六〇年三池安保の闘い◇一九五五年八月政府は「石炭鉱業合理化臨時措置法」を成立させ、全国炭鉱へ能率を一五%引き上げ、労働者を二〇%削減、原価を二〇%引き下げるなどを国策として強行し、日経連は業種の問題として放置せず、全産業の問題として関心をもつべきであるとし、国家権力を含め、総資本として三池労組や炭鉱への攻撃を強行しました。（三池CO）No.189

生存権の保障を求める闘い 『三池CO』No.189、「日経連は：・国家権力を含め攻撃を強行」等挙見し、私が取り組んでいる「介護と社会福祉」とその本質は同じと痛感した。生産手段を所有している者以外は、自らの持てる労働力を売ることでしか生活（労働力の再生産）できない。しかも、生活のかなで生じる社会問題を解決できるだけの賃金は支払われず、ことが起これば生存権が侵害される。各地で生存権の保障を求める闘いが盛り上がり、1963年老人福祉法成立・施行され、1973年同法一部改正で老人医療費公費負担制度へ、社会保障・社会福祉の充実が図られた。しかし、1973年秋の石油危機を契機に社会保障・社会福祉は見直され、1980年代初頭には「国民の自立自助」、「社会連帯」、「民間活用」が強調され、1990年代に入ると、「高齢化社会危機論」が叫ばれる一方、高齢者福祉は市場化・常利化、さらには産業化へと舵を切られ、2000年には、「介護の社会化」を謳いながら、介護サービスは「介護保険」制度に移行していった。

2012年、社会保障制度改革推進法が成立、「自助、共助、公助」が法律に明記され、その後瞬く間に、関連法の成立・改悪が強行され、「社会保障」が「介護保険」制度を軸に音を立てて崩れ去つて今日に至つた。おおむね各地の中学校区ごとにつくられている地域包括ケアシステムによつて、「病院から在宅へ」、「医療から介護へ」の「改革」がすすめられ、これまで医師が行つてきた

医業を看護師に任せ、看護師が行ってきた診療の補助や療養上の世話を介護職員や訪問介護員に担わせる。こうして、介護職員や訪問介護員が行ってきた業務を、「近所の互助やボランティアに期待し、総動員的に担わせる企み、安上がりのシステムづくりが着々と進められている。「地域包括ケアシステムの構築に向けた公的保険外介護サービスの参考事例集」が経済産業省、厚労省、農林水産省の三省で策定され、安倍政権の「日本再考戦略」は、「医療と介護」の「基幹産業化」「生産性向上」へと政府・経団連主導で始まった。「介護現場の革新」について①生産性向上、業務効率化、介護ロボットやICT(情報・通信技術)の積極活用、子どもにも介護の仕事を教える機会、地域応援団を増やし介護現場を地域全体で応援する仕掛け、②外国人受け入れ、③負担能力に応じた負担を求める、世代間・世代内の公平性を確保等々課題山積み、年明け法案が提出される。(宮本嘉峰)

映画と講演 歴史に学ぶ！ 三池闘争とは！ 家族とともに涙しものはなんだつたのか

1959年から60年にかけて、組合役員、活動家と言われた人たち1200名の指名解雇が実行され、313日のストライキをバネに「三池闘争」が始まった。三井資本は政府、日経連の指導の下、警察、右翼、暴力団などを総動員した。

一方、総評及び炭労は全國規模で三池の闘いを支援した。労働者を虫けらのよう扱う政府、資本は今も変わらない。非正規労働者、過労死、低賃金、組合つぶし、偽装倒産、戦争のできる国づくりが進み、労働者の生活と平和が脅かされ続けている。多くの教訓を残した「三池闘争」の記録映画の上映を通して、今を見つめなおす機会にしたい。今だから問いたい！「人間らしい生き方とは」、今一度、自分の生活、職場環境を見つめなおす機会にしてほしい。

◇日 時 2019年 11月17日(日) 13時30分より

◇場 所 八王子クリエイトホール 10階 第二学習室(憲法を生かす会)

【JR八王子駅北口(徒歩8分)、京王八王子駅(徒歩8分)】

◇上映会 「三池闘争」の記録映画

◇記念講演 「三池闘争と戦後労働運動について」

講師 滝野忠氏(社会通信発行人)

◇参加費 500円(資料代)

◇主 催 「三池闘争」から60周年を考える会

◇共 催 憲法を生かす会

◇連絡先

鈴木孝(三池闘争60周年を考える会事務局長)

TEL 042-661-7906

FAX 上に同じ)

古典学習をする楽しさ

「国家論」の学習会が始まつた……との通信に目を通してから、次々と「学習会報告」が出され、「結構楽しい……」と誌上で参加・本箱の隅で眠つていた「古典」が関連資料として並べられてきたので、久しぶりに風を通しながら目を通す。一人気ままに誌上で学習会に参加するのもおつなもの。難しいと避けていた古典学習をする楽しさが燃りはじめた。紙面が許す限り続けてください。

読者さんからの感想有り難う

お疲れさまです♪『通信』読者さん(上原和夫さん)からの感想、有り難うございました。いくらかでも役に立つてはいるようでしたら、嬉しいです♪。

ところで、藤原真理さん、朝日ホールでの演奏会、ベートーヴェンの全曲を二夜でやるのだと記憶していますが、聴いてこられたのですね。ピアノは高戸テルさんだと思います。倉戸さんの連れ合いは、私の好きなクラリネット奏者の遠藤文江さんです。彼女のクラリネットで、私はブルームスのクラリネット・トリオ、クラリネット・ソナタ第二番の演奏会をやらせてもらいましたよ！遠藤文江さんは、オーケストラ・アンサンブル金沢のクラリネット奏者で、私のお気に入りです。藤原真理・遠藤文江・倉戸テルによるCDがあります。ベートーヴェンのトリオII「街の歌」等が収録されています。真理さん、1979年の松本デビュー、その時の彼女の紹介文は私が書きました。1978年のチャイコフスキ・コンクールで第二位、モスクワで記念に録音したLP(メロディア・輸入盤)を持っていたので、「ロシア語と英語で標記した彼女のプロフィル」を私が訳し(もちろん英語から)、それをアレンジして、演奏会主催者(松本労音事務局)へ渡しましたよ。真理さんとは、そんなわけで長いです…。では、おやすみなさい。

(信州松本・中澤秀行)